鴨川小学校だより

令和５年１１月１日第１８号（保護者の皆様へ）

気持ちを伝え、元気にする言葉

人と人とのつながりにおいて、「そんな言い方をしなくてもいいのに・・・」ということは、我々大人だけでなく、子どもの世界にもあることです。直前まで仲良くしていたのに、そのひと言で雰囲気が一変して、場合によっては、学校生活のすべてがつまらなく思えてしまうことにもなります。

その反対に、「ごめんね。」「ありがとう。」「がんばって。」などのひと言でとても温かい雰囲気が生まれ、やる気につながるということもあります。言葉を大切にしながら、コミュニケーションをとることは、人と人との温かいつながりを生み出します。このことは、学校生活においても、子どもたちにとって価値ある学びだと思っています。

言葉は言霊(ことだま)。言霊とは、「発した言葉に宿る摩訶不思議な力」のことで、昔は多くの人々が意識していた言葉の力です。普段使っている言葉が「人の心にやさしく、元気にする言葉」なのか、「人を傷つけ、元気を失わせる言葉」なのか、立ち止まって考えたいものです。

温かい言葉があふれる場所でありますように。

神戸新聞 2023年10月24日 火曜日 面名 北播 １３ 21ページ

全児童18人「ふるさと学習」公開

加東・鴨川小でへき地教育研究大会

山間部や離島などでの教育を考える「第72回全国へき地教育研究大会兵庫大会」の分科会が、加東市平木の鴨川小学校で開かれた。全校児童わずか18人の同校は、地域に学ぶふるさと学習に力を入れており、県内外から訪れた教員ら約100人に授業の様子を公開。児童は自慢の「ふるさと太鼓」も披露した。

兵庫大会は12日に姫路市の会場で始まり、分科会は鴨川小など県内8校で13日に行われた。同校が発表するのは初めてという。

5、6年生の複式学級では、同校が1984年から学期ごとに発行する文集「ひびき」をテーマにした授業を公開。児童や保護者、教員らが文章を寄せる地域ぐるみの文集で、児童らはその魅力を「鴨川らしい」「宝」「思い出」などのキーワードで表現した。見学の教員らがメモを取りながら見つめる中、児童らは言葉をさらに絞り込もうと積極的に意見を交わした。

児童で結成する「ふるさと太鼓」の演奏では、そろいの法被で力強い音を響かせ、会場は拍手に包まれた。6年生にとっては最後の上演でもあり、小薮綜大君(12)は「皆で最後に思い切り太鼓をたたけた。たくさんの人に鴨川のことを知ってもらえたらいいな」と話した。（岩崎昂志）

そろいの衣装で「ふるさと太鼓」を披露する児童ら＝鴨川小学校

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

（校長 福井　明）